

# 「総ぐるみ」新聞

## 第一回医療講演会、大好評にて終了

### 十慈堂病院理事長 佐久 昭先生による「認知症のお話」

NP O総ぐるみ福祉の会の表記講演会は、一月十一日午後二〜四時まで、日限山コミユニティーで開かれ、五十二名(内会員二十六名)という大勢の方の出席がありました。

佐久先生は、「認知症」という誰もがなりたくない病気について、具体例をあげながら、分かりやすくお話くださったので、紹介します。

#### ●認知症の症状

中核症状としては、昼食を食べたのに、そのことを忘れてしまふような記憶障害、ボタンをボタン穴に通すことができないくなるような失行、また、場所・日時・対人が判らなくなつてしまふ見当識障害や



計算ができないなどの障害が現れてくる。また、周辺症状としては、物盗られ妄想、被害妄想、幻覚、うつ状態などが現われたり、暴力をふるったり、わめき声を上げたり、徘徊、過食・異食などの食行動異常などが現われてくる。

#### ●具体的な対応

初期は、衣類の着脱、排泄、入浴、移動、食事などの基本的な生活動作は守られているが、食事をしたことを忘れて何回も要求したり、同じ話を何回も繰返したりする。

痴呆症は、できるだけ早い時期に見つけて、薬(アリセプト)によつて進行を遅らせれば、現在治療薬(ワクチン)がすでにできているので、完治する日も近い。

①自尊心を尊重した対応……同じ話を繰り返されても、叱責、説得、否定をせず受け止めたり、聞き流したりする。また、昔の元気な頃を思い出す話をするのは効果的。②異常行動の背景にある心理を洞察する……多少のことは我慢して、穏やかに、とがめないように対応する。狐がトイレにいる

NP O総ぐるみ福祉の会・事務所は日限山4・44・23の宮崎宅です。入会や活動については、宮崎浩子(TEL 844・47477)、大橋綾子(TEL 823・2363)、菅沼永子(TEL 844・9193)、米川満寿子(TEL 841・9433)、菊地幸子(TEL 841・4862)に。「日限山荘」でも受け付けています。

との幻想で、トイレが使えなくなった方に対しては、「狐に頼んで、トイレを使わせてと頼んでおいたよ」といったら、以後、トイレで用をたせるようになった。

③患者のペースに合わせた生活リズムに整える……できることは極力本人に任せ、できないことは強制しない。

④風邪・脱水症状にしない健康管理。認知症患者は、家族だけで抱え込みがちであるが、デイサービスを積極的に利用したり、近隣の助けを借りたりして、近所で助け合う仕組み作りが、ぜひ必要である。

#### ●認知症の予防法

文章を書く、手足を使う、笑う、歌う等の行為はよい予防法になる。また、興味を持って打ち込むことを見つめるのが最良。

講演後、佐久先生のオカリナ演奏を拝聴し、懐かしい童謡を合唱して終了した。

### 暖かい安心ソックスはいかが!!

寒いこの頃、暖かい厚手ソックスが欠かせません。でも、ゴムの締め付けたり、着脱が難しかったりします。片手でも簡単に着脱ができる、足首を締め付けられないし、裏に滑り止めがついたタイプもあります。見本が日限山荘にありますから、関心のある方、見に来てください。

# 総ぐるみ福祉の会による

## 「初釜」の開催

長谷川 致 正

### ◎初めての取組み

去る一月十三日に総ぐるみ福祉の会主催の「初釜」が、日限山荘で開かれた。昨年の暮から会場探しが始まっていたが、西洗自治会館や日限山コミュニティの予約が取れないと聞いていたので、日限山荘では狭いだろうとは思っていたが、二階の八畳間に世話役を含めた参加者二十人で、座ることはできて、身動きがとれず、窮屈な感じであった。

それでも置き床に掛け軸と花を飾り、緋毛氈を敷き、置き炉に釜をかけるなど茶室らしいしつらがされて、正月茶会の雰囲気のみなぎっていたのには、正直驚かされた。

裏方さんの気構えや器量、ご苦労がしのばれた初釜であった。

### ◎いぶき会と初釜

いぶき会の初釜開催の歴史は古い。今までの開催日などを調べて表に示したように、十回近く開催している。これら初釜は、いぶき会陶芸部と日限山中学校の茶道部が共に行ったもので、陶芸部が焼いた抹茶茶碗を使い、

開催日	場 所	参加者	参加費他
S62・1・25(日)	西洗自治会館		月例会終了後
S63・1・17(日)	同 上		同 上
H 2・1・21(日)	横浜女性フォーラム	104名	500円2点タテ
H 3・1・20(日)	同 上	41名	
H 4・1・12(日)	同 上		
H 5・1・24(日)	同 上	24名	
H 6・1・15(日)		15名	
H 7・1・29(日)	日限山中会議室	22名	
H 9・2・9(日)	西洗自治会館	28名	500円

茶道の作法を学ぶという関係で実施されたのであった。中でも平成二年一月二十一日開催の初釜は、神奈川新聞が「中学校と地域お年寄りたちとの交流の輪が広がる」



として報じたこともあり、盛大であった。横浜女性フォーラムの広い和室二室を使い、一〇四名の参加者は身だしなみを整えて、男性は羽織袴姿も多く、初々しい中学生が着物姿で点てた抹茶をいただき、新しい年を迎えて、すがすがしい気分になったものである。

### ◎初釜のすすめ

今回、大橋綾子さん、

宮崎浩子さん他、世話役の皆さんの努力によって、第一回の初釜会を開催できたことは喜ばしく、来年以降も、NPO総ぐるみ福祉の会の定例行事として開催を希望したいと思う。新しい年を迎え、すがすがしい気分でお茶をいただくことは、無上の喜びである。

